
[成果情報名] 裸麦の新ランク区分に対応した「イチバンボシ」の高品質安定栽培法
[要約] 「イチバンボシ」の硝子率、搗精白度、容積重からみた高品質安定栽培法には、播種時期は11月下旬で、収穫時期は成熟期後2～7日が適する。また、大豆跡作を避け、苗立本数は150本/m²、窒素施肥量は基準どおりとする。

[キーワード] イチバンボシ、新ランク区分、大豆跡、播種適期、早刈り

[担当部署] 農産部・栽培品質チーム

[連絡先] 092-924-2937

[対象作物] 麦

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

平成17年度から麦の新ランク区分による品質評価、平成19年度からは品目横断的経営安定対策事業が始まり、大麦の大幅な品質向上および安定供給が求められている。しかし大麦は小麦に比べて不安定であることから、生産は減少傾向である。また、裸麦の栽培法と加工適性との関係は明確でなく、新ランク区分（硝子率、搗精白度、容積重）に対応した高品質安定栽培技術の確立が望まれている。そこで、裸麦の新ランク区分に対応した「イチバンボシ」の高品質安定栽培法を確立する。

(要望機関名：福岡普（H19）)

[成果の内容・特徴]

1. 播種時期による収量の差は認められないが、11月下旬播は11月上旬播に比べて倒伏程度が小さく、搗精白度が優れる傾向にある（表1）。
12月上旬播では容積重が軽く検査等級が劣る傾向にある。
2. 11月下旬播は硝子率が最も低い（図1）。また、硝子率は子実タンパク質含有率との間に正の相関関係が認められる。大豆跡は水稻跡に比べて硝子率が極めて高く、品質が劣る（表1、図2）。
3. 成熟期後2～7日に収穫すると整粒歩合、検査等級、容積重、搗精白度、硝子率ともに優れる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 福岡県麦栽培技術指針に登載する。
2. 裸麦の新ランク区分における評価項目の基準値は、容積重が840g/L以上、白度は43以上、硝子率は50%以下である。
3. 窒素施肥量は基肥4.5kg、第1回追肥2.5kgを1月中下旬、第2回追肥2kgを2月下旬に施用する。

[具体的データ]

表1 水稻、大豆跡におけるイチバンボシの収量・品質（平成18～19年度）

播種時期	播種密度	窒素施肥量	倒伏程度	千粒重	子実重	容積重	検査等級	硝子率	タンパク質含有率	搗精白度
月.日	本/m ²	kg/10a		g	kg/10a	g/L (相当)		%	%	
11.09 (水稻跡)	100	4.5+2.5+2	2.1	32.0	596	838	1.5	80	8.5	42.9
	〃	〃 (早期追肥)	2.4	31.9	644	833	1.5	67	8.6	42.4
	〃	〃 (晩期追肥)	2.1	31.9	610	837	1.5	77	8.9	43.2
11.20	150	4.5+2.5+2	1.5	32.5	617	837	1.5	47	8.2	44.2
12.05	150	4.5+2.5+2	1.4	33.2	596	825	3.0	62	9.1	44.3
	200	4.5+2.5+2	1.8	32.8	607	822	2.3	54	8.9	46.0
12.05 (大豆跡)	100	2.5+2.5+2	1.7	34.3	614	826	2.5	84	11.1	43.8
	150	2.5+2.5+2	2.4	33.2	662	820	3.0	84	11.5	45.1

注) 1. 倒伏程度は無(0)～甚(5)の6段階、検査等級は1 (1等上)～9 (3等下) の9段階。

2. タンパク質含有率は窒素含有率にタンパク係数5.83を乗じて算出。

3. 硝子率は切断し、硝子質粒数+中間質粒数÷2により算出。

4. 搗精白度は試験用搗精機により200gの試料を60%搗精し、光電管搗精機で測定。

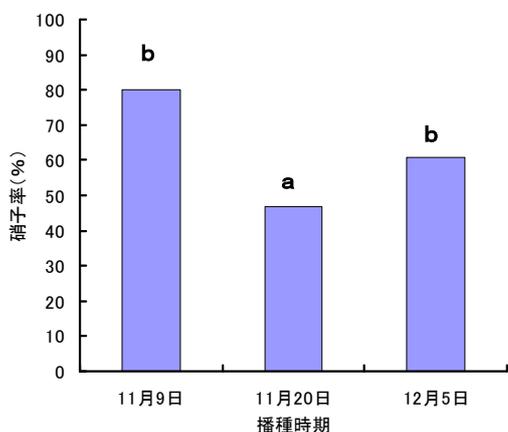


図1 播種時期と硝子率との関係

注) 1. 窒素施肥量4.5+2.5+2kg区。平成18～19年度。

2. 棒グラフ上の英異文字間には5%水準で有意。

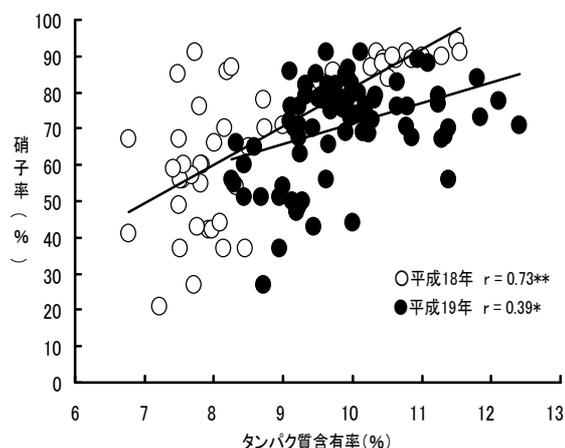


図2 タンパク質含有率と硝子率との関係

注) **, *はそれぞれ1, 5%水準で有意。

表2 収穫時期と品質との関係（平成18年～19年）

播種時期	窒素施肥量	成熟期日数	千粒重	整粒歩合	子実重	容積重	検査等級	硝子率	搗精白度
月.日	Nkg/10a	日	g	%	kg/10a	g/L (相当)		%	
11.22	4.5+2.5+2	-2～+1	33.3	91.5a	565	812a	4.3b	79b	44.1a
〃	〃	+2～+7	32.7	96.0b	571	838b	2.0a	45a	47.2ab
〃	〃	+11～+13	32.8	92.0a	548	801a	3.0ab	42a	50.4b

注) 注意事項は表1と同じ。英異文字間には5%水準で有意。

[その他]

研究課題名：食糧用大麦、はだか麦の品質評価と品質向上技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成19年度（平成18年～19年）

研究担当者：内川 修、宮崎真行、岩瀬哲也、田中浩平